



— アジアの眼 —

アジアの新進気鋭の作曲家たち  
への委嘱作品の新作発表、その他

# 智内威雄 ピアノ・リサイタル

2016年6月19日(日)

開場／午後1時半 開演／午後2時

前売り／2,000円(当日／2,500円)

主催・会場・お問合せ(土・日・水 11:30~17:00)

芦屋 山村サロン

助成：NPO 法人 JML 音楽研究所

山本和智：Dry woods in the wintry wind

石川潤：Waltz Fantasia

同：Toccata

同：Passacaglie e Fuga

シラセート・パントゥアンポーン

：Luklohr-lukkhad2

ファティ・フェヒミュ：Voyage

「左手のアーカイブ」

：バッハ片手演奏プロジェクトより6曲

「左手のピアノ曲」の歴史を紐解くと、後天的に障がいを患った特定のプロのピアニストが、再帰するために書かれた作品が多くある事に気付かされます。古くはワイトゲンシュタイン氏、オタカー氏、最近ではフライシャー氏に舘野泉氏などがその例でしょう。その特定のピアニストのために書かれた楽曲は、芸術性が高い作品である一方、初級者をはじめとするピアノ学習者には難易度の高いものでした。我々は、片手のピアノ曲を必要とする人に、音楽を届けるための活動を行っています。この分野に親しんでいただくために、片手演奏の普及を目指す入門・初級・中級、そして芸術作品の楽譜作りを行っています。更にはワークショップやレッスンなどを通して、後進の指導・教育にも力を入れています。片手演奏の教育に力を入れた活動は、音楽史上類を見ない貴重な試みでもあります。

このように多くの人と喜びを共有する事で、彼らの希望が芸術に昇華され、そして過去に書かれてきた「左手のピアノ曲」が人類共有の財産として受け継がれていく事を確信します。今回はその新たな一歩となる演奏会です。どうぞご期待ください。

コンサートの流れとしては、左手の音楽の変遷が感じられるように楽曲配置をします。300年ほど前のC.P.E.バッハあたりから始まった左手の練習曲、そして近代の戦時戦後に発展した左手の音楽。そして現代の音楽としての左手の音楽。これらをすべて既存の楽曲ではなく、委嘱作品により表現します。300年ほど前のバッハの時代は、「左手のアーカイブ」の片手のバッハ編曲プロジェクトより6曲ほど演奏されます。100年前の近代は、石川氏によるショスタコヴィッチをイメージして作られた楽曲。現代の左手の音楽としては、山本和智氏、シラセート・パントウラアンポーン氏、ファティ・フェヒミュ氏の楽曲が演奏されます。



**智内威雄 (ちないたけお)** 東京音楽大学在学中にミラノにて研鑽を積む。卒業後、ドイツ国立ハノーバー音楽大学に入学、その間、グリーク国際コンクールで特別賞、マルサラ国際音楽コンクール3位入賞等数々のコンクールにて入賞受賞。01年ジストニアが発症し休学・リハビリを開始する。03年よりドイツにて左手のピアニストとして活動を再開する。06年に広島交響楽団とラヴェルの「左手のための協奏曲」を共演し絶賛され、同年日本デビューをする。「左手のピアニスト」として驚異的なテクニックと深遠かつ豊かな音楽性で新境地を切り拓く。片手にハンディキャップをもつ演奏家に、音楽を続ける道を示す任意団体「左手のアーカイブ」プロジェクトを設立する。関西テレビ制作のドキュメンタリー番組、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、共同通信、NHK (AM、FM、TV) 等のメディア各社にて活動の特集が組まれる。13年にNHK・ETV特集にてドキュメンタリーが放送される。